

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

(実施期間：令和元～令和6年度)

実施機関：日本医科大学（総括責任者：弦間 昭彦）

共同実施機関：日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社

取組の概要

1. 「いのちのつながり」を柱とした研究の推進と女性・若手研究者キャリア支援

女性・若手研究者の視点で生命現象を捉え、病因・病態の解明や疾病予防、健康寿命の延伸を主眼においた研究を推進する。産学連携を支援し、研究成果の早期実用化を促す。リーダーシップ養成セミナーを共催し、学協会における理事・会長への就任、政府諮問機関等への参画を目指す人材を育成するとともに、上位職への登用を行う。

2. 「いのちのつながり」講座によるワーク・ライフ・バランス意識改革

種の多様性は生態系の安定に必須である。生命科学研究に取り組む女性・若手研究者が、一般社会に向けたアウトリーチ活動を通じて「いのちのつながり」がダイバーシティの具現化に必須であることを解説し、ワーク・ライフ・バランスの意識を高める。これらの取組を通じ、多様なヒトと動物、環境の多様な生命との共生を目指す、一歩進んだダイバーシティ環境の実現を目指す。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

医学系・獣医生命科学系の大学、企業が連携し、「いのちのつながり（One Health）」をキーワードにダイバーシティに係る意識啓発を進めるというコンセプトの下、事業実施母体として「しあわせキャリア支援センター」を創設し、女性研究者・技術者の採用、上位職への登用を積極的に進めたことは評価できる。代表機関の学長のリーダーシップの下、医学部教授選考評価基準の見直し、「教育担当女性講師・准教授」の配置、研究成果の早期臨床応用・実用化に向けたトランスレーショナルリサーチ支援、留学支援等、先進的な取組を進めるとともに、取組の進捗状況についての的確な分析と評価を実施しており、今後の展開が期待できる。3機関の連携を更に強化し、十分な相乗効果を挙げることを期待する。

- ・**目標達成度**：3連携機関とも、女性研究者の採用比率、在職比率、上位職比率等に係る数値目標を概ね達成しており評価できる。3連携機関全体としては、上位職の女性在職比率、女性採用比率ともに目標を上回り達成しており評価できる。共同実施機関のアンファー（株）においては、教授相当の上位職へ女性の登用を進めることを期待する。
- ・**取組**：連携する2大学が協働し、「研究支援員配置制度」、「病児・病後児及び休日勤務時等の保育支援制度」を創設し、また、3連携機関が協働し、「女性・若手研究者キャリアデザインプロ

ジェクト」を立ち上げ、キャリアパス支援、クラウドファンディングによる研究費獲得を支援したことは評価できる。さらに、代表機関において創設した女性教員の上位職登用を目指した「教育担当講師・准教授制度」、アンファー（株）におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した働き方改革推進の取組は評価できる。

- **取組の成果：**連携する2大学においては、女性教員30名が昇任を果たした。その内6名は「研究支援員配置制度」を利用したライフイベント中の女性教員、12名は「教育担当講師・准教授制度」を活用した女性教員であったことは評価できる。また、昇任により5名の女性教員が教授相当（教授、臨床教授、特任教授）の職に就いたこと、代表機関において初の女性理事1名が誕生したことは評価できる。
- **実施体制：**各連携機関の長、実施責任者、研究部長等から成る「One Health 実行委員会」を創設し、代表機関の学長のリーダーシップの下、取組を進めたことは評価できる。今後は、代表機関と共同実施機関の連携を促進し、共同実施機関のより積極的な参画を図ることを期待する。
- **今後の進め方：**代表機関のリーダーシップの下、女性研究者・技術者の活躍を推進する基盤が整備されており、今後は地域社会や地域の企業とも連携し病児保育や復職支援を進める計画であり、取組の継続、発展が期待できる。また、アフターコロナに向け、女性研究者を対象とした留学支援体制を具体的に整備していることは評価できる。